

本当に怖いむし歯

歯科 佐々木 慎也

むし歯（う蝕）とは

むし歯を知らない人はおられないと思います。そして多くの人がむし歯の治療をしたことがあるのではないのでしょうか。とはいえ、「むし歯が年々少なくなっている」とも言われます。実際に歯科疾患実態調査の結果では、6歳児でむし歯のある人の割合は約90%（平成5年）から約30%（令和4年）と激減したことが分かります。

一方、成人の場合は45歳以上では増加傾向で、例えば65～74歳の層では約77%（平成5年）から約97%（令和4年）と増加しています。つまり、「むし歯が減っている」のは子どもだけで、**「大人のむし歯は増えている」**のです。これは、歯を抜かずに残したまま歳を重ねる人が増えていることが関係しています。歯が残っているということは、その歯がむし歯になるリスクがあるということです。つまり、残っている歯が増えているけれども、その残った歯がむし歯（又はむし歯治療済みの歯）だから**「大人のむし歯は増えている」**のです。

むし歯の一番大きな原因は、むし歯菌、特にミュータンス菌です。ミュータンス菌は、糖を栄養として酸を産生し、その酸のせいで歯が溶けていくのです。**菌にくっついた菌と糖を歯ブラシで落とすのは最も効果的で重要**です。また、菌のエサである糖を減らす、つまり間食やジュースを減らすこともむし歯予防に効果的です。唾液はむし歯を予防するはたらきがありますが、加齢や病気、薬の影響で**唾液が出にくい人はむし歯が進みやすく、特に注意が必要です**。

むし歯が一度できると、一部の初期むし歯を除いて、元通りに戻ることはありません。進行すると歯の神経を取る治療が必要で、さらに進めば抜歯せざるを得なくなります。抜歯となれば、そこを補う治療がさらに必要で・・・といった具合に、治療はどんどん複雑で長期化してしまいます。

ミュータンス菌（むし歯菌）と脳出血？

前号でもお伝えした通り、歯周病は全身の病気と関わっています。そして、最近ではむし歯も全身の病気に関わることが分かってきました。ミュータンス菌にも種類があって、Cnmという遺伝子を持っている菌が脳出血に関与するということが報告されています。いわば悪玉むし歯菌で、10人中1～2人がこの菌を持っているとされています。この悪玉菌が口の中から血流にのって、脳血管に到達すると、小さな出血部位に接着します。通常、ごく小さな出血部位は血小板によってすぐに止血されます。しかし、悪玉菌は血小板のはたらきを妨げるので、出血が持続してしまい、**重大な脳出血に繋がる**ことが分かっています。悪玉菌が口の中にいるか調べるには特別な方法が必要です。

しかし、むし歯を放置せずに治療すれば、たとえ悪玉菌を持っていたとしても脳血管に到達するリスクを減らせます。そのような意味でも、早めのむし歯治療と予防のためのケアをお勧めします。

公立世羅中央病院歯科では、保存治療を専門とした歯科医師が診療をしています。